



共立

パックテスト® 使用方法

# りん酸

&lt;りん酸態りん&gt;

型式 WAK-PO4  
KR-PO4モリブデン青比色法による  
Molybdenum Blue Visual Colorimetric Method

主試薬 モリブデン酸アンモニウム

測定範囲 <りん酸イオン> PO<sub>4</sub><sup>3-</sup> 0.2~10 mg/L (ppm)  
<りん酸態りん> PO<sub>4</sub><sup>3--P</sup> 0.1~5 mg/L (ppm)

GHSマーク

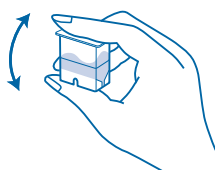


危険

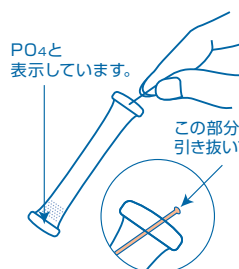
## 測り方



① 検水を専用カップの線(1.5mL)まで入れ、滴ビンのK-1試薬を4滴加えます。



② 蓋をして2~3回振ります。

PO<sub>4</sub>と表示しています。

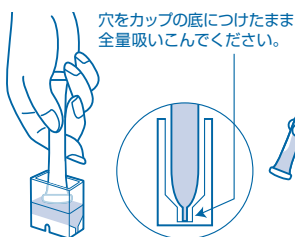
この部分をつまんで引き抜いてください。

③ チューブ先端のラインを引き抜きます。



④ 穴を上にして、指でチューブの下半分を強くつまみ、中の空気を追い出します。

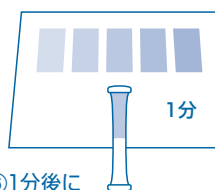
⑤ そのまま穴を検水の中に入れ、つまんだ指をゆるめ、全量吸い込みます。液がもれないようにかかるく5~6回振り混ぜます。



穴をカップの底につけたまま全量吸いこんでください。



5~6回



⑥ 1分後にチューブを標準色の上のせて比色します。



デジタルパックテスト、デジタルパックテスト・マルチSPでも測定可能です。

## 比色と測定値の読み方

- 指定時間後にチューブ内の水の色を標準色と比べ、一番近い色の値がその検水の測定値になります。標準色の色と色の間の場合は、だいたいの中間の値を読んでください。
- りん酸、りん酸態りんの標準色が表裏に印刷されています。測定する目的に合わせて、使い分けてください。

## パックテスト使用前、使用後の取扱い注意

K-1試薬および測定後のチューブの内容物は**強酸性**です。

### 応急措置

- 内容物が目に入ってしまったら → すぐに15分以上、水で洗い流してください。痛みや異常がなくても直後に必ず眼科医の診断を受けてください。
- 内容物が皮膚や衣服にふれたら → すぐに水で洗い流してください。
- 内容物が口に入ってしまったら → すぐに水で口の中を洗い流してください。
- 内容物を飲み込んだり、上記の措置後に異常がある場合には、すぐに医師の診断を受けてください。試薬の有害性については外箱背面の「GHSに基づく表示」をご参照ください。

### 保管

ラミネート包装を開封した後は、なるべく早くご使用ください。

### 廃棄

事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。それ以外の場合は、チューブや滴ビン等はそのまま「燃やすゴミ」としての廃棄も推奨しています。

### 試薬に関するお知らせ

K-1試薬は硫酸、セモリブデン酸六アンモニウム四水和物を含んでおり、取扱い者へのSDSの提供を義務づけた「労働安全衛生法 特定化学物質第3類物質」、「労働安全衛生法施行令 名称等を表示し、または通知すべき危険物及び有害物」に該当します。なお、「PRTR法」および「毒物及び劇物取締法」には該当しません。

株式会社 共立理化学研究所  
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.〒145-0071 東京都大田区田園調布5-37-11  
TEL:03-3721-9207 FAX:03-3721-0666  
https://kyoritsu-lab.co.jp kyoritsu@kyoritsu-lab.co.jp

## 特徴

この製品は、JIS K 0102 46.1.1 モリブデン青吸光光度法の発色原理を用いており、工場排水をはじめ、いろいろな検水中のりん酸イオンを簡単な操作で測定することができます。

環境水や井戸水の測定には、本製品よりさらに操作が簡単で安全なパックテスト りん酸(低濃度)(型式 WAK-PO<sub>4</sub>(D)、測定範囲 0.05~2mg/L)をご利用ください。また、浄化槽や水耕栽培養液など、高濃度の測定には、パックテストりん酸(高濃度)(型式 WAK-PO<sub>4</sub>(C)、測定範囲 2~100mg/L)をご利用ください。

細かい測定値が知りたい場合は、デジタルパックテスト(型式 DPM2-PO<sub>4</sub>)、デジタルパックテスト・マルチSP(型式 DPM-MTSP)をご利用ください。

なお、パックテストとは測定範囲、反応時間、共存物質の影響が若干異なりますのでお問い合わせください。

[特許 第4125603号]

## 注意

1. この方法では、検水中のりん酸イオンのみが測定され、加水分解性りん、全りんは測定できません。加水分解性りんおよび全りんを測定する場合には、JIS K0102 46.2, 46.3 に従って、それぞれ前処理後に測定してください。
2. この方法では、検水中のりん酸イオン(PO<sub>4</sub><sup>3-</sup>)の測定値、およびりん酸態りん(PO<sub>4</sub><sup>3-</sup>-P)の測定値の両方が得られます。(りん酸態りんは、りん酸体りん、りん酸性りんとも表示します。)
3. 発色時のpHは、約1です。pHが2~9の範囲をこえる検水は希水酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
4. 1000mg/Lのりん酸標準液では、標準色と同等以上に発色します。高濃度が予想される場合には、あらかじめ希釈してから測定してください。
5. 検水の温度は15~40℃で測定してください。水温が低いと発色に時間がかかります。
6. 1回で検水を全量吸い込めなかった時には、穴を上にして空気を追い出し、もう一度やりなおしてください。
7. 比色する時に、多少試薬が溶解せずに残っていても測定には影響ありません。
8. 比色は昼光で行なってください。直射日光や一部の蛍光灯、水銀灯、LEDでは比色が困難になることがあります。
9. 発色後にラインをチューブ先端の穴に戻すと、チューブ内の水がもれなくなります。

## 共存物質の影響

標準色は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準添加法により測定値を確認してください。下記は、標準液に単一の物質を添加した場合の発色への影響データです。

1000mg/L 以下は影響しない	...	Al <sup>3+</sup> 、B <sup>3+</sup> (ほう酸)、Ba <sup>2+</sup> 、Ca <sup>2+</sup> 、Cl <sup>-</sup> 、CN <sup>-</sup> 、Fe <sup>2+</sup> 、I <sup>-</sup> 、K <sup>+</sup> 、Mn <sup>2+</sup> 、Na <sup>+</sup> 、NH <sub>4</sub> <sup>+</sup> 、NO <sub>2</sub> <sup>-</sup> 、NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> 、Sn <sup>2+</sup> 、SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> 、Zn <sup>2+</sup> 、フェノール
500mg/L	//	...
250mg/L	//	...
100mg/L	//	...
50mg/L	//	...
20mg/L	//	...
少しでも影響する	.....	As <sup>5+</sup> (ひ酸)

海水は影響しません。

また、酸化性物質が影響する場合があります。